

「森と棚田のめぐみはタダでよかですか？」

セミナー（講演会）ご案内

「将来、食料や木材や水が将来不足すると考えるのは、人口爆発、地球温暖化による気候変動、円安による貨幣価値の目減りで輸入が難しくなる、という3つが大きな理由です。私が久木野で保全しているのは、棚田や森林ではなく、実は『生きるために不可欠なものを確保する』という安心感なのです」（ミツカン水の文化センター発行「水の文化」35号より抜粋）と語り、「風土に合う」「循環させる」「自律する」「集中より分散」「分析より統合」の地域づくり・森づくりを、水俣病で苦しんだ（今も苦しんでいる）水俣川流域で実践されている愛林館館長の沢畑亨氏をお招きして、経済学会講演会を開催します。



龍谷大学経済学研究科ABEイニシアティブプログラムの現地研修でもお世話になっています。地球環境問題という、関わることの難しい課題に日常の暮らしの中で関わるヒントを、実践紹介から学びます。ぜひご参加ください。

講師からのメッセージ

私の住む上流社会（川の上流にある社会、山村とも言う）では、山でスギやヒノキを育てて、棚田で稲を育てています。

それは木材と食料の生産ですが、同時に人間の生存に欠かせない酸素・水・土を作ることであります。

森と棚田のめぐみ（多面的機能とか公益的機能ということも多い）について考えてみましょう。

学生がふりかえりで詠んでくれた短歌を紹介します。龍谷でもみなさんの短歌を楽しみにしています。

マンションが建設すると田が消える幼い頃の何かも消える

（熊本保健科学大学1年生作）

沢畑亨氏プロフィール

1961年生まれ。熊本県西合志町（現合志市）出身。東京大学農学系大学院林学専攻修士課程終了。農学修士。西武百貨店に入社。池袋店の食品部企画課に勤務し、北海道物産展などを担当

1989年 西武百貨店を退社。今井俊博氏と「熱帯文化研究開発機構」を創設し、コンサルティング・執筆・編集などの活動を行う。東南アジア諸国を頻繁に訪れる。1994年に水俣市久木野ふるさとセンター愛林館の館長（全国公募）に選ばれ、現在に至る。熊本保健科学大学・熊本大学非常勤講師



日時：2024年11月20日 水曜日 11時00分～12時30分

場所 深草学舎21号館406教室

主催：龍谷大学経済学会

経済学部専攻科目「基礎演習Ⅰ」（西川クラス）

問い合わせ・事前申し込み：経済学部 西川芳昭

nishikawa@econ.ryukoku.ac.jp